

### 3 発掘調査の実施

#### (1) 調査の概要

平成 25 年度は、企業庁からの委託により、豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業にかかわり、豊田市内の 6 遺跡、のべ 19,850 m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

(遺跡の位置)



国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」

(調査面積と調査期間)

遺跡名	全体面積 (m <sup>2</sup> )	調査区内訳(m <sup>2</sup> )					現地調査期間	備考
		A区	B区	C区	D区	E区		
柿根田遺跡	7,100	3,000	2,500	500	1,100		25. 5～26. 2	
朴ノ木B遺跡	1,000						25. 12～26. 2	
菅ノ口遺跡	1,300						25. 5～25. 8	
丸山A遺跡	1,350						25. 11～25. 12	
神谷上切遺跡	100						25. 12～26. 1	
日面遺跡	9,000	1,350	2,500	3,000	1,600	550	25. 5～26. 2	
面積計	19,850						25. 5～26. 2	

かきねだ  
柿根田遺跡

所在地 豊田市下山田代町柿根田 柿根田地内  
(北緯 35 度 1 分 31 秒  
東経 137 度 19 分 1 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業

調査期間 平成 25 年 5 月～平成 26 年 2 月

調査面積 7,100 m<sup>2</sup>

担当者 成瀬友弘・石井香代子・米満武

調査経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴

う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受けて実施した。

立地と環境

本遺跡は、谷に面した斜面に立地しており、調査前の状況は山林であった。標高は海拔 430～460m 前後である。2012 年度に調査した柿根田遺跡（縄文、古代、中世）と隣接し、尾根を挟んで陥し穴を検出している朴ノ木 A 遺跡がある。

調査の概要

本年度の調査面積は 7,100 m<sup>2</sup>あり、調査は柿根田の谷の中程に位置する A 区・B 区と、最奥部の C 区・D 区の 4 調査区に分割して実施した。A 区・B 区では、斜面で多数の陥し穴を検出した。また、A 区斜面下の谷頭周辺では古代から近世の遺物と遺構を検出した。C 区・D 区では古代の遺物と遺構を検出している。



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」)

13A・B 区

A・B 区は東向き斜面で、調査面積は合計 5,500 m<sup>2</sup>であった。A 区は斜面下方の谷部で、B 区も下方の緩斜面部分では中世以降を上層、古代以前を下層として 2 面の調査を行った。その他の斜面は地山で一括して検出を行った。

斜面では両地区合計 15 基の陥し穴とみられる土坑を検出した。平面形状はほとんどが楕円形であり、細長いものが 1 基あった。底部に逆茂木を据えた痕とみられる小穴を有するものも含まれる。浅い谷を横断するように設けられた群と、尾根上に沿うように設けられていたものがある。古代以降に堆積した黒色土層の下で検出した土坑もあるが、それ以外は年代を決める根拠が薄い。ただし、この地区で検出されている他の陥し穴と共通した特色を持ち、おそらくそれらと同じ縄文時代に遡るとみられる。

下層調査を行った A 区の谷は、昨年度の調査で古代の墨書土器や堰状遺構を検出した流路の水源の一つに当たるため、関連する遺構や遺物の検出が期待された。調査の結果、谷より一段高くなった場所で、谷を囲むように設けられた古代に属するとみられる溝を数条検出した。他に数点の灰釉陶器片が出土したが、直接昨年調査結果と結びつくものは検出できなかった。なお、B 区の下層では時期不明の土坑と溝を数基検出している。

この他、A・B 区では近世以降の炭焼の遺構、用途不明の石組み遺構等を検出した。

13C・D 区

C・D 区は谷の最奥部の北東斜面に位置する。所々に緩斜面もあるが、表土直下に花崗岩の巨石がある、傾斜もやや急であるなど、安定した広い場所を確保するのが難しい場所である。調査面積は C・D 区合計で 1,600 m<sup>2</sup>であった。

調査では古代の灰釉陶器と土師質の土器を多数検出した。これらは斜面中程で多く出土

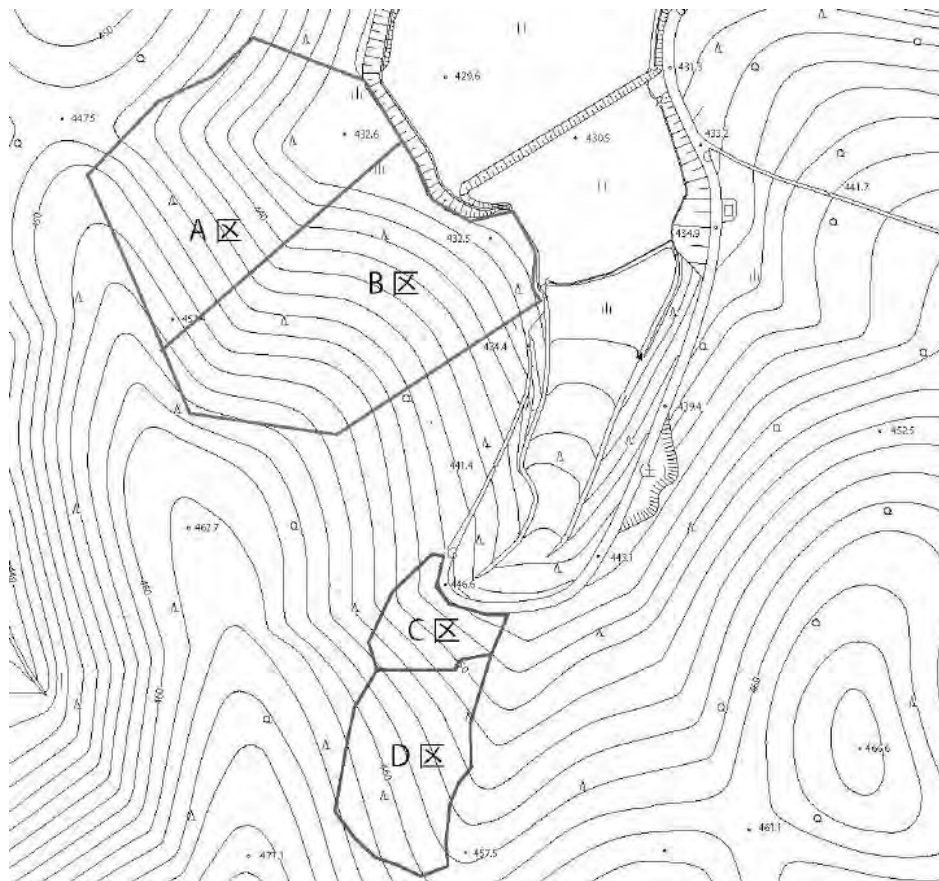
しており、焼土の入る土坑もこの周辺で2基確認していることから、このあたりが遺跡の中心とみられる。他に斜面の上方で被熱痕のある土坑を2基検出しており、やはり古代のものと考えられる。

近世以降は斜面の下方から土器や煙管を検出している他、調査地各所に炭焼きの痕跡を確認している。

**ま と め** 柿根田 A・B 区は谷の周囲で多少の遺構や遺物を検出したものの斜面では遺物はほとんど無く、陥し穴が多く散在していた。この場所は居住よりもむしろ生業、特に狩猟の場として利用されていたらしい。

一方、C・D 区では古代の土器が数多く出土しており、被熱痕のある遺構も数カ所認められた。ここでは長期間ではないにしろ、煮炊きが行われ、居住の痕が認められる。両遺跡は同じ谷筋でありながら時期差があり、遺構の性格も異なっていた。また、昨年の成果を考えると流路内で検出した遺構や遺物は C・D 区の方が時期的に近く、今後は両地区の関連を考える必要があるだろう。

陥し穴、古代を中心とする遺物や遺構は下山地区の調査で件数が増えており、それを補強する資料として興味深いと考える。  
(石井香代子)



柿根田遺跡 調査区図 (1:1,000)



柿根田遺跡 A・B 区 遺構配置図 (1:500)



柿根田遺跡 C・D 区 遺構配置図 (1:400)



A区 045SK 完掘状況



B区 190SK 完掘状況



A区 045SK、046SK、051SK、049SK 検出状況



A区 谷部上層、099SD。



A区 107SX



B区 下層遺構検出状況



柿根田 C区 315SK 検出状況



柿根田 D区 411SD、412SD



柿根田 A・B 区全景



柿根田 C 区 全景



柿根田 D 区 全景